

第4回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)1月23日(月)19:00~20:20

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 出席委員 9名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	武田	裕史

大津行政センター 館長 望月 正彦(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 櫻井 聡

5 傍聴者 9名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、第4回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

《 各委員から異議なしの声 》

○飯田教育政策課長（事務局）

地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、本協議会の開催に当たりましては、半数以上の委員の出席が必要となります。

本日は、委員11名中、9名にご出席いただいておりますので、本協議会につきましては成立していることを報告させていただきます。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。

委員長、よろしく申し上げます。

（委員長）

皆さまからは率直なご意見を出していただきたいと思います。

それでは次第の1「第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会について」で、事務局から説明をお願いします。

≪ 「第4回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会」の資料1から資料3までについて事務局から説明 ≫

（委員長）

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手でお願いします。

（委員）

協議会資料1にある委員意見（案2）に記載している小規模特別認定校制度は、案2とは別の案として出したと思います。これを見る限りでは、不登校児童をどんどん集めていくという印象になりますが、元々は学区を撤廃し、学校を選べるような認定校にしてほしいという意見だったと思いますが、いかがでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

前回の協議会において、小規模特別認定校制度が走水小学校を残す方策の一つとしてご意見を頂いたものと認識していました。本件に係る記載が事実と異なるということであれば、訂正した上で、案2とは別に案3としてお預かりしたいと思います。

（委員）

訂正していただければと思います。

また、資料1に記載されている3つの案の並びは、具体的にどういうことですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

案1は走水小学校区を馬堀小学校区に編入した場合ですが、馬堀小学校区ではなく鴨居小学校区に編入した場合はこのようになることを案1（参考）としてご説明しました。

今回の小規模特認校制度に関するご意見は、案1、案2とは独立したものという認識でよろしいですか。

（委員）

それをお願いしたいと思います。

（委員）

資料2に記載されている審議会での意見では、通学と通学路における安全の担保と今後の学校施設の活用方法の2点が決まらなると地域としても話が進まないということですが、要は、この2点を決めれば学校の統合は見えてくるという解釈でよろしいですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

審議会委員からは、こうしたことが見えてこない地域としても議論がしにくいのではないかという点に基づいてご意見を頂いたものと認識していますので、今、委員がおっしゃったような形でご意見を出したわけではないと思います。

（委員）

資料3を読んでいると、審議会でも学校を統合するというご意見なのかなと思ってしまいます。

また、ホタルの里に関してですが、小学校の先生方と協力し、平成11年頃の小学6年生の卒業記念としてできました。その当時は、潮風のあるところではホタルは飛ばないだろうと思っていましたが、実際にホタルが飛んでいるのを見てすごいと思いました。

他の地域では、地域住民が作り上げたというところもあると思いますが、走水地域に関しては、走水小学校があったからホタルの里ができたということで、その点は強く主張したいと思います。

（委員）

審議会においては、学校の適正数及び適正規模、教育効果の面で学校の統合が適切というところで意見がまとまりつつあるように感じます。走水地域の住民の意見をどこまでくみ取ってもらえるのか、あるいは走水地域の文化等について審議されること

もないのですが、審議会が決めたことで走水地域の過疎化が進んだ場合、本当にそれが正しい決め方なのか、疑問に感じます。

確かに、審議会は学校の適正配置を検討する場であって、地域の発展と過疎化問題について議論する場ではないことは分かっていますが、ただ児童数が少なくなったから統合するというのを延々と続けるということではなく、今まで築いてきた地域のアイデンティティと伝統等をどのように守るかという点で、何か答えを出してもらえないかと思っています。

○大堀教育政策課主査（事務局）

地域の皆さまのご意見は、本協議会での意見聴取を通じて審議会委員にお伝えしておりますし、その上で審議していただいています。

学校は、地域のアイデンティティや文化等に関わる地域の拠点でもあります。

しかしながら、教育委員会としては、学校は第一に子どもたちの学びの場であると考えています。児童数が少なくなる状況で、公立の小学校としてどのような教育環境が望ましいのか考えていきたいと思えます。

もちろん、地域の文化や地域の皆さまの思いをないがしろにしていることではありませんので、現在、本協議会においてご意見や思いを踏まえながら検討をしている状況です。

○古谷教育総務部長（事務局）

補足させていただきたいことが1点あります。

現在、教育委員会から該当地域の教育環境の整備について検討するよう諮問を受け、横須賀市立小中学校適正配置審議会では審議を行っているところです。

ただ、走水・馬堀地域の実態を知らずに検討することはできませんので、本協議会においてさまざまな立場の方々から頂いたご意見を踏まえ、審議会としての答申をまとめていく形になります。

方策案については、教育委員会という合議制の場で方策案を決定していきます。審議会が政策を決定するということではございません。

（委員）

審議会委員の皆さまが走水地域のことを知らないのであれば、一度見に来ていただきたいです。

資料3の審議会の会議録を見ますと、地域感情が表に出てしまい、子どもたちに関することに触れられなくなっているという意見がありますが、そのようなことは一切ありません。

走水の環境で学校に通ってほしいという気持ちがある一方で、今のように少ない人

数で良いとは全く思っていませんし、クラス替えができる規模まではいかなくても、できるだけ多くの友達と過ごす学校生活を過ごしてほしいというのは、皆も同じ気持ちだと思います。

この4年間で走水小学校の方針を決めないといけないのかもしれませんが、もし8年間の期間があれば、その間に走水の県営団地の建て直しもありますし、今すぐにはできないものではないとしても、若い世代に来てもらうなど他にも考えることはあるのではないかと思います。

また、通学に関しては、私は歩いて通えるところに住みましたが、例えばバス代を出して遠方の学校へ通わせている家庭は、それを分かった上で住んでいると思います。子どもの教育を考える際に、交通費程度は自己負担すると言われてしまうと何とも言えませんが、今の環境を変えるようにと言われて、交通費は自己負担ですと言われるのは違うのではないかと思います。

(委員)

学校教育に携わる立場から考えると、子どもをどのように教育し、育っていくかが優先されるべきだと思います。もちろん地域のことも大切なのは十分承知していますし、その上で、小学校6年間で子どもたちがどのような思いをし、学習をしていくかなどを見据えた上で中学・高校へとつなげていくかを重視していく必要があると思います。

ただ、走水地域の実情において通学面で難しさがあるのは十分理解していますので、その点は市で考慮していただき、子どもたちが安全に通える形にしていきたいと思います。

(委員)

仮に学校を統合するとなった場合、スクールバス等さまざまな方法がありますが、子どもたちが安全・安心に通えるよう、ぜひ市で具体的に決めていただき、これならばというような方策が出れば良いと思いました。

あとは、馬堀小学校区と走水小学校区に関して言えば、例えば走水海岸でのキャンプであったり、遠足の目的地となっている観音崎公園であったりと、通学区域は異なるものの、走水は身近な地域だと考えています。

もし走水小学校と馬堀小学校が統合ということになれば、その学区の中に教育的資産及び地域教材があるという自慢が増えるという点で、本当に嬉しいことだと感じています。

(委員)

審議会が出た学校運営に関し、少人数ではできないことがあるという項目について

は事実ですし、先ほど他の委員も言われたように、私も小学校の児童の数を増やしたいと思いますし、それは地域の皆さまも他の学校も同じだと思います。

加えて、小規模校における対応に関することと、子どもたちがコミュニケーションをとってたくましく生きることについても、本当にその通りだと感じています。

また、審議会会議録では、走水の歴史的かつ自然的な環境と走水小学校の関連性についても話題に上がっていましたが、これは今の学校教育でも重要な点ですし、走水小学校においてもこれを柱とし、外の方々に関わりをお願いしながら教育活動を進めているところです。

直近の話では、12月に走水の漁師さんに体験等を通じてさまざまなお話を聞くということをしていますが、その地域で生活する方が数十年単位に関わり、変化してきている走水の海の様子を知ることを通じ、日本、ひいては世界の環境を考えることにつながると考えれば、走水地域の教育材料を生かしつつ、そこに向けて学校として工夫しているということになります。

最後に、2月には学校側で給食の献立を考える自校献立というものがありますが、ここで走水のおかめを使って地産地消することを通じ、学習の一環へと変えていくような学校である点も付け加えたいと思います。

(委員)

そもそも、去年から走水の国や県の土地に関する話をしていたと思います。

自衛隊官舎や防衛大学の土地の件については、もっと前から市でも把握していたと思いますが、そうだとすれば、協議会を始める前にそれが分かった時点で、市の方でどのようにすればその土地を市で購入したり、新しく人を迎えたりすることができるかの話をしてほしかったと思います。そのようにすることで、より良い提案を市にすることができたと思います。4年間で子どもの数を増やすというのは難しい話です。

国の土地をどのように市で購入してくれるか等、まだまだ問題はありますが、このような問題がさまざまところで出てくると思うので、早めの対応をしていっていただきたいと思いますし、今後の問題として考えていただきたいと思います。

(委員)

今の委員の発言に関する補足です。

昨年11月26日に走水小学校の体育館を借り、教育委員会の方に走水地域の住民に対してこれまでの流れを説明していただき、町内会役員を含め総勢78名の方にご参加いただいた中で意見交換を行いました。

国有地の問題に関しては、2棟の防衛大学の旧官舎、南谷戸に位置する3棟の自衛隊の官舎、その他1か所の合計3か所について、管轄とされる関東財務局と横須賀

事務所に対しての署名活動をやってほしいとの意見が出ました。これらの面積は、狭い地域の中でかなりの割合を占める土地ですので、早めに民間に払い下げるよう市で働きかけることをしてもらい、新しく子育て世代に入っていただければ良いのかなと思います。

もう1点ですが、京急バスに関しては、浦賀から観音崎を経由して走水に抜けるという形での経路をループ状にする改正をお願いできれば、人的な交流の拡大及び観光地としての活性化につながるのではないかという意見もありました。

また、11月の説明会の場では出ませんでした。走水小学校の教室を借り、放課後児童クラブのような活動ができないか、検討を始めようと思います。

「Yokosuka Reconstruction Plan (横須賀再興プラン)」において、46の小学校区の内44の小学校区にはすでに設置されているとのこと。なお、平成31年4月1日時点のデータになりますが、公設民営団体が1団体あり、民設民営団体が71団体あるとのこと。現時点の数は分かりませんが、おそらくこれくらいの数の団体があると思います。

今後の小学校施設の活用を考えたときに、走水地域に住む、あるいは今後住みたいという方には、当然共稼ぎの世帯が多いと思いますので、小学校で放課後も預かっていただければ、生活プランを立てやすいと思います。

今、国会が始まり、国も重い腰を上げて異次元の少子化対策を行うと言っており、本気で取り組もうとしています。国からもさまざまな通知等があると思いますが、市においても、こうしたことを前倒しで検討をしていただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

国有地に関して一つの考え方を申し上げます。

それは、現在の走水小学校の児童数から各学年ともに複数学級という規模に達するまでどれくらいの人数が必要かということです。

現在、本市で人口が増えているところが追浜地域です。浦郷小学校区に合計千戸以上の2つの大きなマンション群が建っていますが、浦郷小学校の教室数が不足する状況が想定されましたので、1つのマンションについては、通学区域の変更によって夏島小学校区に移っていただいた経緯があります。

学級数が増えるには、これくらいの規模の住宅開発が伴うということですので、走水地域にある空いた土地について、走水地域の活性化のために家を増やしていくとした場合でも、各学年が複数学級という規模にまで至らないのではないかと考えています。あくまで一つの考え方としてご理解いただければと思います。

また、京急バスの減便に関しても、仮に走水小学校と馬堀小学校が統合した際に、朝の登校時間帯にバスを使うということになれば、受け入れられるかどうかは別の話ですが、京急バスの増便についてお願いすることはできると思います。

最後に放課後児童クラブに関しては、共働き等であることで留守家庭になる世帯が利用者の対象になりますので、例えばその地域に対象となる方がどれくらいいるのか確認をする必要があります。

補助金を伴う事業ですので、財政及び補助を考えたときに、ニーズと費用及び効果の部分でどうなのか見ていけない部分があると思います。

(委員)

今、国有地と複数学級に関する話がありましたが、あくまで児童数がどこまで増えるかであり、私は、走水小学校の各学年が複数学級になるまでという前提で申し上げてはいません。7、8人の児童数が10～15人と徐々に増えれば良いというように思っていますので、これも一つの意見として聞いていただけると幸いです。

また、前回の協議会で、空き家等に関する取り組みを通じて人を増やす施策をしているかどうかを質問し、書面で回答していただきましたが、回答の基となる資料を作成した部署はどこなのですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

まちなみ景観課です。

(委員)

分かりました。

要は、前回の協議会でこうした件数を聞いたかったのではなかったはずです。

走水地域の国有地をどのようにしたら良いかということと、それから、放課後児童クラブの取り組みを走水地域でしてこなかった理由についてご回答いただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

放課後児童対策については、ニーズが関わる話だと思います。

(委員)

過去の話ですのでどうしようもないことですが、もし、5年前からこうした放課後児童クラブのようなものがあれば、走水小学校の児童数は今よりももう少し多かったのではないかと考えています。

走水小学校をこうした目的で使うことについて何か障害があるのでしょうか。

(委員)

今までも学校に学童クラブを入れる施策はありますので、その施策の中でどのよう

な議論がなされているかを見ながらということになりますし、所管も福祉こども部になります。今後、そのような話が出てきた際に、今頂いたご意見と前例を比較しながら検討を進めることはできます。

(委員)

馬堀小学校にも学童クラブがあるはずですが、それについてもご提言いただければ良かったのかなと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

民生局で行っている事業ですので、この場で明確にお答えすることはできませんが、学童クラブのほとんどが民営です。

確かに本市には公設の学童クラブもありますが、あくまで民間の学童クラブのモデル事業として進めている点があると聞いていますので、基本的には地域の中で民間ベースで学童クラブが立ち上がることが大前提となるのであって、本市から学童クラブの誘致をしているわけではないと思います。

また、民間において学童クラブをやるので学校を使いたいという要望についても、当然、学童クラブに適した教室というものがあります。そのための新たなスペースを作れば良いというものでもありませんので、こうした中でさまざまな調整を行った結果、学校での学童クラブが実現しなかった事例も聞いたことがあります。

(委員)

走水にあるシャロームという特別養護老人ホームの施設の方と話をした中で、ライセンスは企業として持っていますし、資格を持つ職員もいるとのことでした。また、職員としても子どもを預けるのであれば助かるという話も頂きました。

これもすぐにできるという話ではありませんが、今後はそうしたところも早急に詰めなければいけないと思っています。

(委員)

市内には46の小学校があると思いますが、少子化問題によって、今後も統廃合が進んでいくことになるのでしょうか。そうした場合、最終的に学校がどれくらい減るのかを聞きたいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

それぞれの地域でこのような検討をしながら進めていくことになりますので、今後、学校がどれくらい減るかについては申し上げられません。

今後もこのような形で検討を進めていくのかどうかについては、学校施設の老朽化

の問題、学校の小規模化の問題、通学区域の問題等の課題がありますので、継続的に検討をしていかなければいけないところがありますし、小中学校の教育環境整備についての考え方を変えていく必要があります。

その背景の一つとして、建物が更新の時期を迎えていることがあります。児童・生徒数の減少による学校の小規模化の問題とも絡めつつ、本市の教育環境としてどのような形が良いかについて、継続的に検討を進めていく必要があります。

(委員)

教育環境の整備には多大な費用がかかると思いますし、やはりお金が一番なのかと思いました。同時に、市の財政も厳しい状況であるとも感じました。

今後も少子化が進んでいくという認識だと思いますが、そうであれば、今後、小規模校でなければできない地域が出てくる可能性もありますので、それを前提とした制度に方針転換することがあっても良いと思います。

当然、学校生活でのさまざまなふれあいもあると思いますが、これからの時代に、例えばオンラインを活用したり、近隣の学校との交流の時間を設けたりすることで、学校の教育を少しずつ変えられれば良いと思いました。

さまざまな小学校があると思いますが、走水小学校には海と山といった、教育的に資するものがある中で、それをなくしてしまえば戻ることはありませんし、とてももったいないことだと思います。良い方向に進めていきたいというのは皆も同じだと思いますし、何か得策を見つけられないかと思います。

(委員)

統合された小学校が復活した事例はありますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

市内ではそのような事例はありません。

(委員)

それでは、小学校が復活する可能性はありますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

可能性については申し上げられません。

(委員)

通学で家と学校を行き来する時間は、子どもたちがお互いにコミュニケーションをとれる点でとても大事な時間だと思いますし、これがバス通学になることで、バスの

中で静かにしなければならなくなると思いますし、結果として子どもたちのコミュニケーションが奪われてしまうとかわいそうだと思います。

その他に、例えば放課後に馬堀地域の友達と遊ぼうとしても、低学年の子どもにとっては通学距離の面で厳しいと思いますし、自分も仕事をしているので子どもの送迎もできないため、結果として我慢させることになるのはどうかと思います。

また、習い事をしているところでは、学校が終わった後はかなり急いで準備して行く形になるので、宿題をする時間がなくなる状況にならないか不安に思います。

ところで、もし走水小学校を残すとする場合は、複数の学級があることが最低条件となるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針 改定版」において、適正規模を12学級から24学級としています。

また、11学級を下回る小学校については、適正配置・適正規模の検討をしていくという基準になっていますので、それに基づいた検討を行います。

（委員）

その規模まで児童が増えるのは難しいと思いますし、各学年に複数学級というところまでいかなくても走水小学校を残す方法がないかをずっと考えていますが、なかなか思い浮かばないのが正直なところです。

話は変わりますが、協議会への出席がきっかけで学校、子ども、地域について勉強することが増えたのですが、その中でも横須賀の不登校の子ども数が820人だったのが、3～4か月で900人以上へと急激に増えています。コロナ禍も理由の一つと聞いたことがあります。横須賀でこの人数はかなりの数です。こうした子どもたちについて、市は何か対策をしているのでしょうか。

○小谷支援教育課長（事務局）

本市では相談教室を設置しています。

具体的には、旧坂本小学校跡地にある「ゆうゆう坂本」をはじめ、汐入小学校、公郷中学校、久里浜中学校、武山中学校に相談教室がありますので、なかなか学校に足が向かない子どもたちが、少し緩やかな時間割で活動しています。

また、各中学校に相談室があり、登校支援相談員のもとで別室で学習したり、自分が行けそうな時には自分のクラスに行くといった活動もしています。

（委員）

相談教室を利用している子どもの割合はどれくらいですか。

以前、学校になかなか足を踏み入れられない子どもが多いと聞きました。

○小谷支援教育課長（事務局）

不登校の子どもの約10%です。

各学校の相談室に来る子どもたちは、この場で詳細な統計は出せません。その他にフリースクール等を利用している子どももいます。

（委員）

不登校になる理由は分かりませんが、今までの教育環境に合わない子どもたちが学校に行けなくなるのだとも感じます。

例えば、どこの企業でも売れるようにするためには今までとは違うことに取り組むことをすると思いますが、そうではなく、今までと同じことをしては不登校の子どもが増え続けてしまうのではないかと思いますし、もう少し不登校の子どもに合わせた教室のようなものも考えられると思います。

どの子どもたちも同じ教育を受けるべきだと思いますし、教育環境については分からない部分もありますが、その点はどうかかなと思いました。

○小谷支援教育課長（事務局）

今おっしゃったことはよく分かります。

ただ、学校の実態において、学校の規模の大小によって不登校の「多い・少ない」という傾向があるわけでもなければ、距離によって「行ける・行けない」という傾向があるわけでもありません。

環境を変え、遠い学校でも行きやすくなる子どももいますし、本人の状況と世の中の状況等があり、何かをしているから不登校の子どもが増えていることではないようです。今回の学校の適正配置との関係性について、今の中での回答が難しいところです。

今、コロナ禍ということもありますので、市としてもさまざまなアプローチをしながら課題を解決していきたいと思います。

（委員）

この3～4か月で不登校の子どもがこれほど急激に増えるのかと思いましたので伺いました。ありがとうございます。

（委員）

本日の議題とは離れますが、市職員が「KAKEHASHI」という団体を作り、大企業と一緒に地域の活性化を図る活動をしていると聞きましたが、その点はいかがですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

活動自体について聞いたことはありますが、その活動内容について、この場で具体的なお話はできません。

（委員）

分かりました。その活動について、市で情報共有をされているかどうかの確認として伺いました。

私はこの活動がとても面白いと思っており、それをきっかけに走水地域の活性化を図ればありがたいと思っていました。参考までにご報告だけ申し上げます。この活動は市が関係するプロジェクトではないのでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

全く関係していないわけではありませんが、内容については後ほど確認します。

（委員長）

それでは、よろしいようですので、これで第4回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会は終了とし、進行を事務局へお返しします。

○飯田教育政策課長（事務局）

委員の皆さまありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項についてご説明します。

本日の会議録についてですが、確認用の会議録が作成できましたら、お送りします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開します。また、追加のご意見等につきましては、別途お受けいたします。

次に、次回開催については、事前に皆さまにご連絡していますが、令和5年3月17日（金）の19時から大津コミュニティセンターにて開催します。開催通知等につきましては後日お送りいたしますので、よろしくをお願いします。

ただいまの内容についてご質問がありましたら、挙手をお願いします。

ご質問等がないことを確認しました。

委員長、委員の皆さま、ご協議ありがとうございました。

以上で第4回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。以上